

「嵐山国有林の取扱いに関する意見交換会」の報道状況

(平成21年)

7月12日(日) 毎日新聞(全国面)に記事掲載。

9月 4日(金) 毎日新聞(京都面)に記事掲載。

10月25日(日) 京都新聞に記事掲載。

26日(月)

11月 6日(水) 毎日放送ニュース番組「VOICE」にて報道。

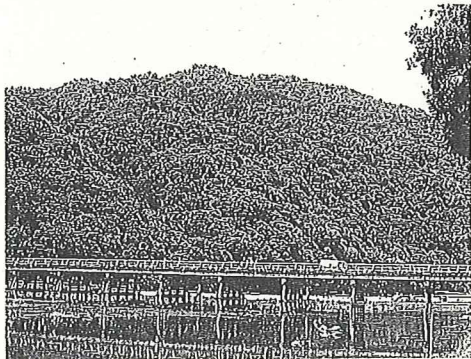
11月18日(水) 読売新聞(関西版)に記事掲載。

11月29日(日) 日本経済新聞(全国面)に記事掲載。

その他、西日本新聞、大阪日日新聞、山陽新聞、神戸新聞、徳島新聞、高知新聞、さがけ(秋田)、長崎新聞、四国新聞、日本海新聞などの地方紙で同様の記事掲載。

ヤマザクラやカエデ衰退

嵐山SOS



桜と紅葉の名所・嵐山（京都市西京区）で、常緑樹に押されてヤマザクラやカエデの衰退が続いている。約140年前に伐採が禁じられた常緑樹が繁茂し過ぎたことが大きな原因と考えられる。27年前からヤマザクラやカエデの植林を続ける林野庁京都大阪森林管理事務所は「情性で植えてきた面もある」として、植林方法の再検討に乗り出した。

【太田裕之（写真も）】

■常緑樹茂り過ぎ

名勝の大部分を形成する嵐山国有林は渡月橋の上流右岸の59畝。

13世紀末から亀山上皇や天龍寺開祖・夢窓国師らが奈良・吉野から

ヤマザクラやカエデの衰退が問題となっている嵐山国有林。手前は渡月橋
〓京都市で6月

ヤマザクラを移植するなどして人工的に維持してきた。しかし、1871（明治4）年の国有化を機に常緑樹の

伐採が禁じられたためブナやナラなどの広葉常緑樹が成長し、ヤマザクラなどが阻害されるようになった。

■国は対策不得手

国は82年に管理方針を策定し、京都大阪森林管理事務所が地元の

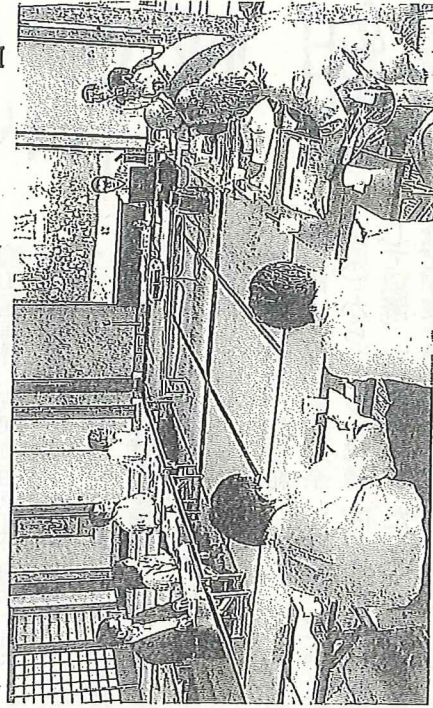
嵐山保勝会と合同でサミラれる。同事務所はクラやカエデの植林を地元関係者や研究者と始め、90年から一部の樹木の折伐も解禁した。しかし、常緑針葉樹中心の植林が続けてきた林野庁にとって落葉広葉樹は「不得意分野」。00～07年の追跡調査では、対象地域はい」と話している。

北向きで急傾斜なうえ、50%以上必要とされる開空度が31%しかなく、植林したサクラの4割、カエデの1割が枯死していた。折伐が抑制的で、植林もセレモニ―の色合いが濃く、生育に向けた検討が不十分だったためと

地元関係者と専門家交え

積極的に意見交換

京都大阪森林管理事務所



嵐山国有林の状況について意見を交換する嵐山保勝会役員や専門家ら二右京区の天龍寺友雲庵で

嵐山国有林に 色彩豊かな

ヤマザクラが盛殖するなどの課題を抱える嵐山国有林(西京区)について、林野庁京都大阪森林管理事務所が地元関係者や専門家との意見交換会を設置し、改進黨の検討に乗り出している。これまで交換会では活発に意見が出され、4日開かれる第2回会合では、分野ごとに専門家が発表する。

意見交換会は嵐山保勝会の役員ら4人と天龍寺宗務総長、同国有林に隣接する「嵐山土

ンキーパークいわたやま」園長の他、NPO法人森林再生支援センター常務理事(植生)▽森林総合研究所関西支所主任研究員(獣害)▽京都大学准教授(景観)▽府立大助教(治山)の各専門家が加っている。京都市と府の担当者はヤマザクラに「参加する」。

桂川の渡戸橋上流右岸に広がる同国有林(59ha)は、13世紀末から奈良・吉野のヤマザクラを移植するなど植栽で名勝が形

作られてきたが、明治時代初めに国有化で伐採が禁じられ、近年他の広葉樹が成長してヤマザクラが衰えている。

国は地元の嵐山保勝会と連携して「嵐山植林百樹の日」と銘打ってサクラやカエデの植樹をしたり、一部の樹木を抜き伐る択伐もしてきた。03年には「世界文化遺産貢献の森林」に指定され、「落葉広葉樹と針葉樹が混交した色彩豊かな森林」が目標とされてい

る。ところが、00、07年の植樹の追跡調査では植樹したサクラは10本当たり4本が枯れていた。急傾斜や明るさ不足が原因とみられ、シカが苗木を食ったり木の皮をむく被害の可能性も指摘されている。また、土壌基盤が弱く落石も多いという。

6月の初会合では、同事務所がこうした状況や従来の取り組みを関係者も含めて率直に報告。同事務所の植田澤所長は「これから委員の意見を聞き、学んだ上でやっていきたい」と話し、嵐山保勝会の役員は「我々も言われて豊かに植えるだけだった。意見交換の場はありがたい」と歓迎。専門家からは「なぜ枯れたかを検証する必要がある」「択伐の面積制限にこだわらず、新たな仕組みを」などの意見が出された。

4日は森林再生支援センター常務理事と京都大学准教授が発表する予定。会合は次回も3回開き、年度内に提言をまとめる方針だ。

【太田裕之 写真も】

コピーを希望される方は、総務まで御連絡下さい。

嵐山の景観 将来に不安

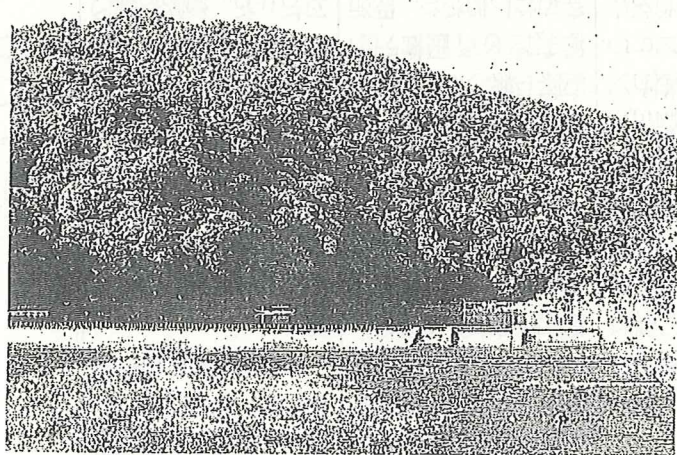
森林の世代交代進まず

嵐山のサクラやモミジが将来、見られなくなるかもしれない。渡月橋上流の桂川右岸にある嵐山国有林（京都市西京区、59杉）で、こんな懸念が高まっている。次世代を担う若い木が育っていないため、管理する京都大阪森林管理事務所は多角的な意見を聞くため、地元と専門家を交えた意見交換会を設け、植樹などの方法を見直している。

嵐山国有林は、13世紀分の乏しい土地を好むマ末に亀山上皇が吉野（奈ツは激減した。枝打ちや良県）からサクラを移植 間伐を行わない管理だとして以降、マツやサクラ たため、日が差し込まず、などが度々植えられ、歴 サクラやモミジの若い木史的に美しい景観が作 が育っていない。一方で、り出された。天龍寺や住 アカガシやヤブツバキな民の生活で使われる木 どの常緑広葉樹が広が材の供給地でもあり、間 り、モミジなどの景観を伐などで森林の世代交 侵食している。

明治以降、国有化で人 務所と地元の嵐山保勝会の手が入らなくなり、養 が1982年から続ける

植栽サクラ4割 モミジ1割 枯死



植樹や入山の在り方が検討されている嵐山国有林（京都市西京区）

クラは4割、モミジは1割が枯れていた。事務所の福田淳所長は「行事としての植樹を優先し、適や保勝会などの代表6人が2000年・07年の植所に植栽された感があバ―参加の京都府と市の裁地を調べたところ、サる。植栽前に周囲の高木管理事務所が意見交換会 植樹方法見直し

員からは「明治以降の嵐山は『見る山』になり、入ってよいのかも分からなかったとの声も出た。今後、植生▽獣害▽景観▽治山―の各テーマで、来年1月ごろに提言をまとめる予定だ。

福田所長は「今に始まった課題ではないが、地元や専門家の声を聞く場がなく、対策は場当たり的なになってしまっていた。提言を生かし、効果的な対策をとっていきたい」と話す。

（松田ゆい）

コピーを希望される方は、総務まで御連絡下さい。

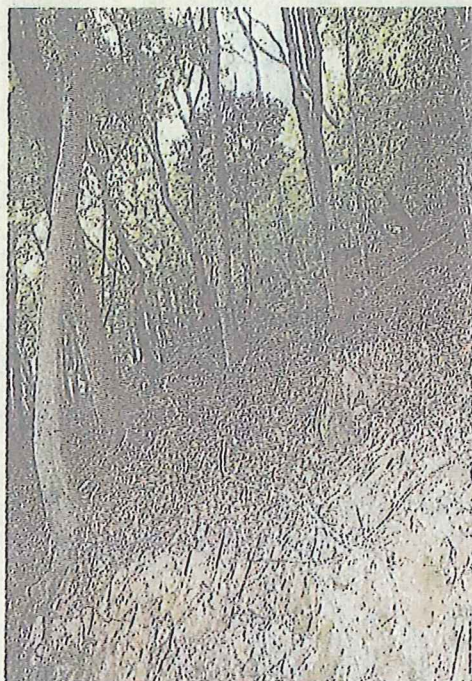
京都大阪森林管理事務所
(京都市上京区)が、嵐山国有
林(西京区)で長年続けてきた
サクラやモミジの植樹方法な
どを見直している。嵐山の景

嵐山

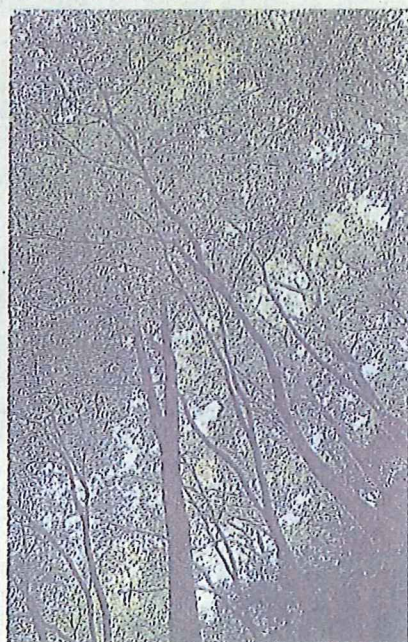
観を代表するこれら落葉樹の
若木が現在あまり育っておら
ず、将来の景観に影響を及ぼ
しかねないからだ。山中はど
うなっているのか訪ねた。

サクラ、モミジの植樹法見直し

———管理事務所———



地表部分に低木や下草が見あたらない
森林内。土が雨で流れたり落石が起こ
りやすくなったりしている



大きく育った木が頭上を覆っている。このため、
森林内は常に薄暗い

渡月橋上流の桂川右岸 くだもの、下草や低木が
に広がる同国有林。「嵐 極端に少ない。「地表に
山モンキーパークいわた 日が届いていないので、
やま」の入り口近くから 芽が出て大きくなるま
山道を登る。 で育ちにくい」と案内し
薄暗い。茂みがほとん てくれた管理事務所の福
どない。ケヤキやモミジ、 田澤所長。 ち、今は日を遮るようにな
スギなどの大木は目に付 明治までは、枝打ちな 落葉樹の若木が育たず、
明 治 まで は、 枝 打 ち な 落 葉 樹 の 若 木 が 育 た ず、

直し項目の一つだ。
「シカのふんも目に付い
た。「シカの繁殖も景観
に影響しています。日当
りが良いのに草や若木
がない場所もあり、シカ
が食べてしまっているせ
いです」。獣害対策も見
広がっていた。
(松田ゆい)

下草、低木少なく

枯死が多発

大木が陽光遮り シカ「食害」も影響



山中のあちこちに残るシ
カのふん。新芽や下草を
食べてしまうシカの「獣
害」も森林の新陳代謝に
影を落としている

常緑樹が広がってさらに
落葉樹を押しやっている
形だ。

道の脇に支柱だけが残
されている。苗が枯れた
跡だ。サクラとモミジの
記念植樹を国などは続け
ているが、日当たりなど
場所の選定ミスなどで枯
死も多発し、見直しを迫
られている。

京リポート
'09

コピーを希望される方は、総務まで御連絡下さい。

嵐山 カエデ 桜 衰弱

植樹育たず、獣害も

紅葉シーズンを迎えた京都・嵐山で、山を彩るカエデや桜などの衰弱が目立っている。鎌倉時代に吉野山(奈良県)の桜を移植して以降、長年の植栽で景観が形成されたが、明治以降は手入れが行き届かず、適応力の強い常緑広葉樹が茂り、カエデや桜の若木が育ちにくくなっているためだ。地元団体などは「このままでは嵐山の風情が失われる」として、対策の検討を始めた。



見頃を迎えた紅葉。森を守る取り組みが進む
(京都市右京区の渡月橋で)＝菊政哲也撮影



林野庁京都大阪森林管理事務所(京都市)によると、カエデや桜の衰弱が確認されたのは、嵐山・渡月橋の南西に広がる約60㌫の森。一帯は13世紀末、龜山上皇が数百株の桜を吉野山から移して植えてから、桜や松などが頻繁に植えられた。近くの天龍寺の寺領で、僧や信徒らがたきぎを調達し、日常的に間伐も行われた。

ところが、明治初期の国有林化などで人の手が入らなくなり、アカガシなど常緑広葉樹の植生が広がって、森の中に日光が十分に差し込まなくなった。地元では、嵐山保勝会を中心に1982年から、桜とカエデを植樹してきたが、成長は今ひとつ。2000年以降に植えた桜、カエ

デ各80本を調べると、桜は33本、カエデは8本が枯れていた。付近は鳥獣保護区で、鹿や猿などが若木を食べる「獣害」も深刻という。今年6月、同事務所の呼

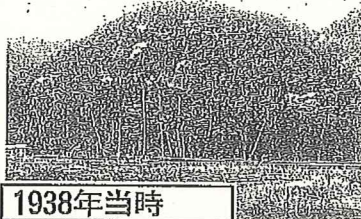
びかけで、保勝会のメンバーや研究者らでつくる意見交換会が発足。「森の再生」に向け、植生、景観、などの観点から提言をまとめる。

保勝会の田中克彦専務理事は「植生は国有林周辺でも変化している。嵐山の景観を残すため、多くの人に現状を知ってもらい、再生につなげたい」と話している。

紅葉の名所として知られる京都・嵐山の渡月橋に近い京都市西京区の国有林(59杉)で、サクラやカエデの生育が悪化し景観が変わってきていることが、林野庁京都大阪森林管理事務所などの調査で分かった。観光地としての嵐山を守るため、地元住民らでつくる嵐山保勝会は「今のままでは美しい景観を保てない」と危機感を募らせている。

同事務所は、1982年から毎年、保勝会と合同で

伐採禁止で枯れるサクラ・カエデ

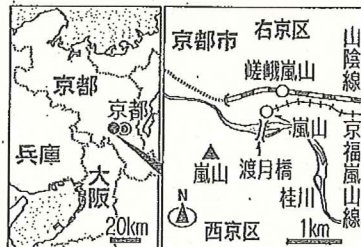


1938年当時

景観が変わってきた嵐山国有林(写真上は林野庁提供、同下は現在)



常緑広葉樹増える



京都・嵐山「景観保てない」

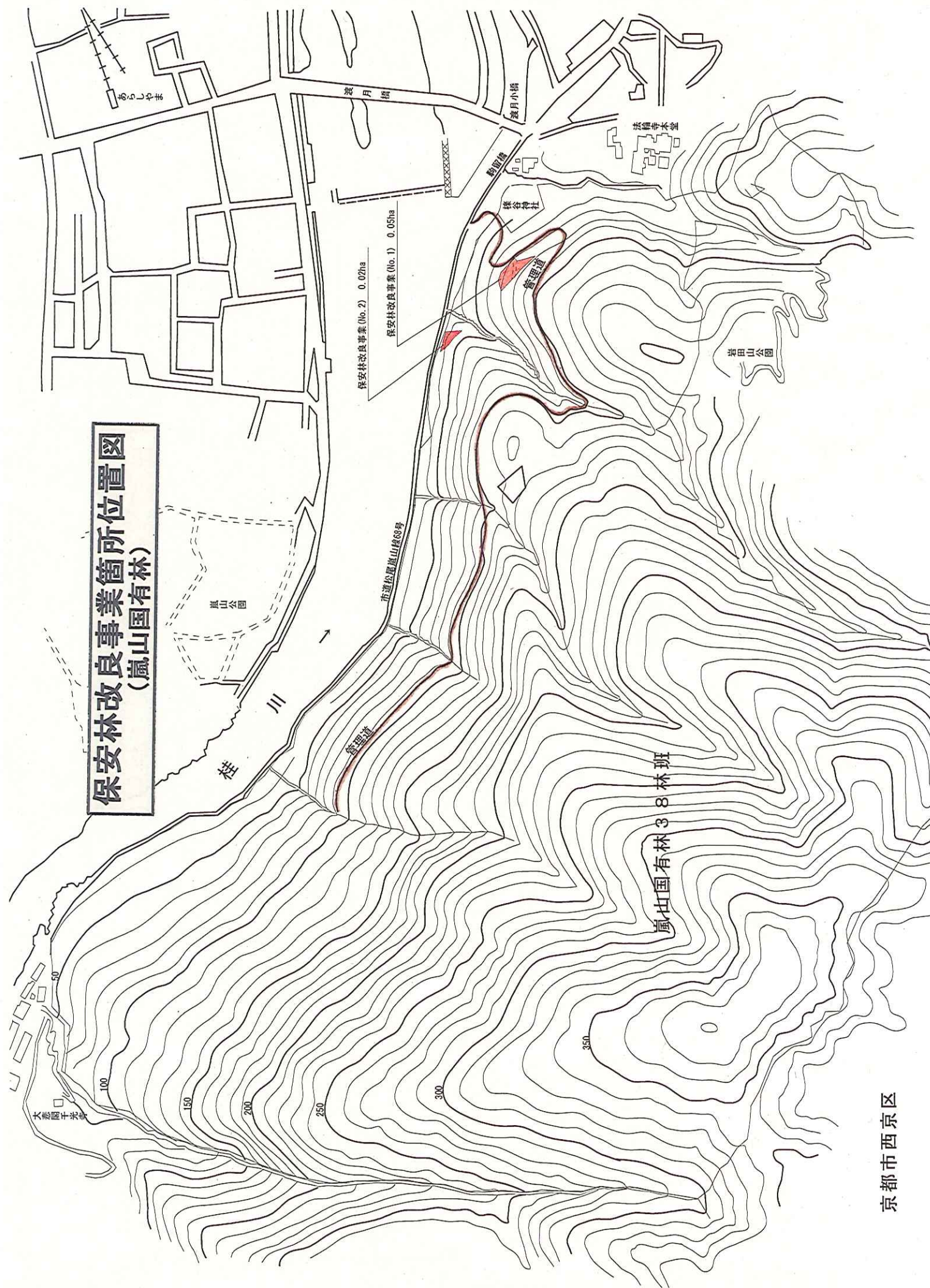
サクラとカエデを植樹。2本の生育を調べたところ、本が枯れるなど十分に育っていない。00007年に植えた各80サクラは33本、カエデは8本で、枯れているものがあった。

地元に危機感、対策へ

薪拾いなどがなくなり、土の養分が増えてマツの生育に不適となった結果、常緑広葉樹が増加。日光がよく当たる場所を好むサクラやカエデを囲んでしまったことが、育ちにくくしている原因という。

森林管理事務所は「明治時代初めに官有地になり、森林伐採を禁じたことが転機だった」と分析。保勝会や有識者らと意見交換し、常緑広葉樹の枝落としなどの対策を、来年2月までにまとめたとしている。

保安林改良事業箇所位置図
(嵐山国有林)





保津川対岸から見た事業計画箇所(No.1)の遠望



同上(No.1箇所)の遠望

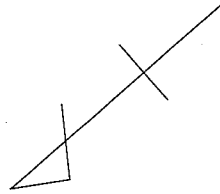


同上(No.2箇所)の遠望

嵐山国有林保安林改良事業 (No. 1) 生育立木及び伐採立木位置図

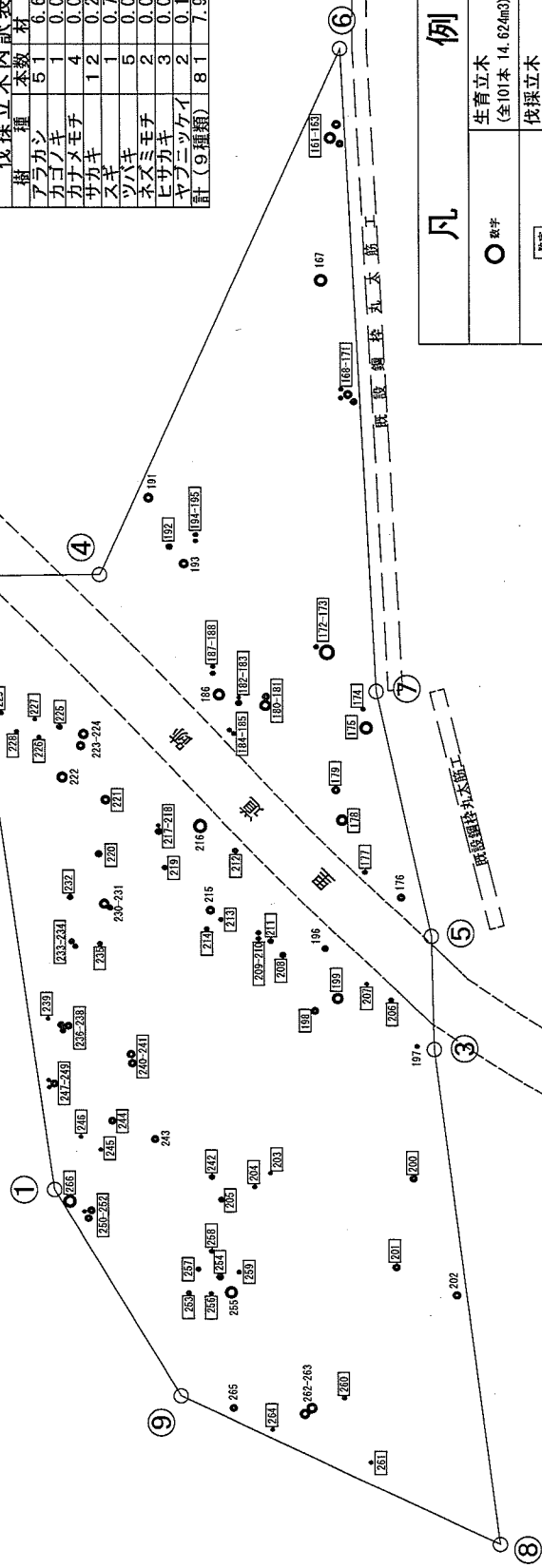
S=1/250

事業面積 A = 0.05ha
(503m²)



管理道

伐採立木内訳表		
樹種	本数	材積
アサカシ	5	0.611
カシノキ	1	0.070
カナメモチ	4	0.047
サカキ	12	0.221
スギ	1	0.790
ツバキ	5	0.067
ネズミモチ	2	0.077
ヒサカキ	3	0.016
ヤブニツケイ	2	0.115
計 (9種類)	81	7.954



凡例	
○ 数字	生育立木 (全101本 14.624m ³)
□ 数字	伐採立木 (内81本 7.954m ³ 伐採率54%)

嵐山国有林保安林改良事業(No.1)



測点⑨付近から測点⑧方向事業区域内の状況

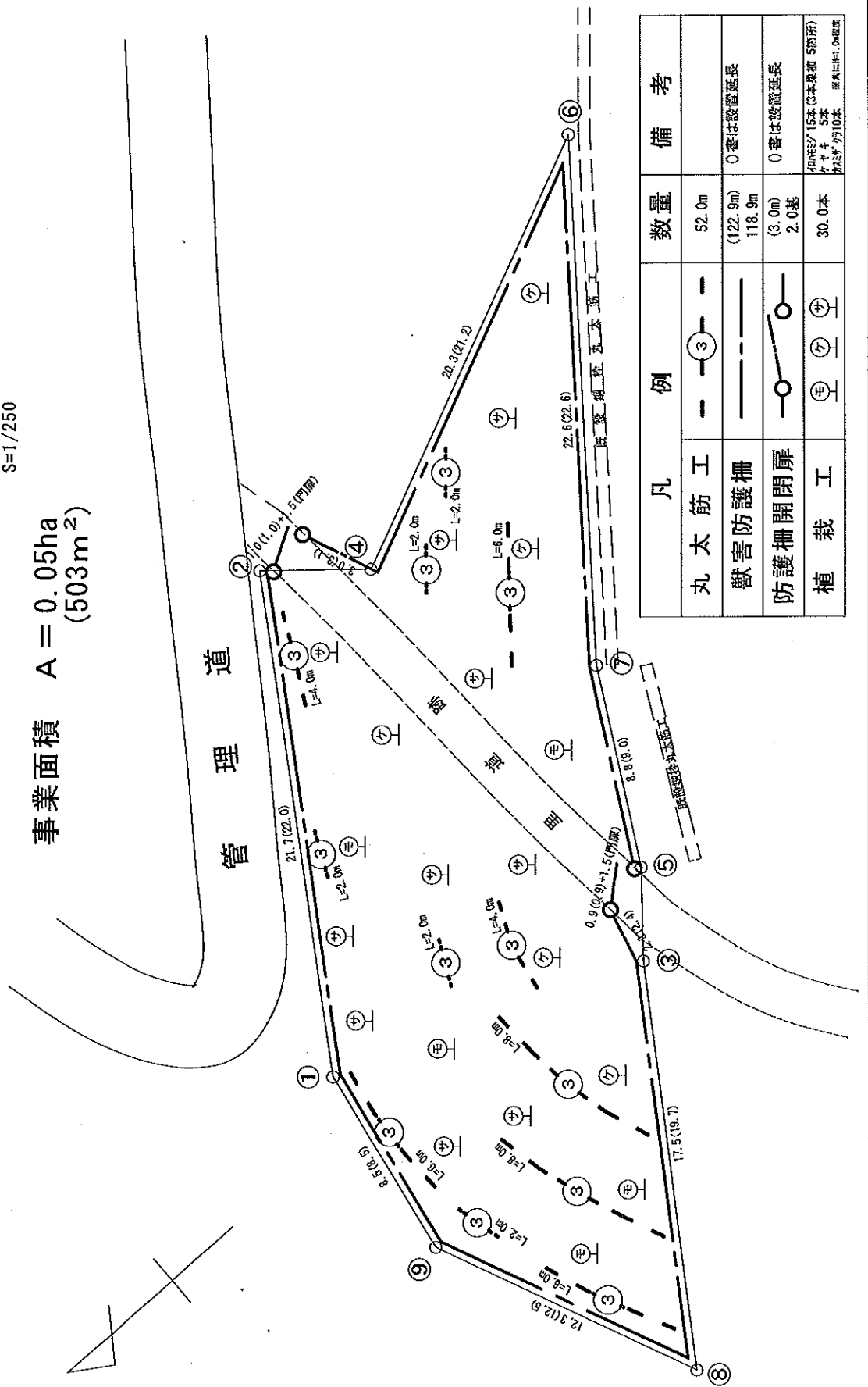


測線①～⑨から事業区域内を望む

嵐山国有林 保安林改良事業 (No. 1) 平面図

S=1/250

事業面積 A = 0.05ha
(503m²)



凡 例	数量	備 考
丸 太 筋 工	52.0m	
獣 害 防 護 柵	(122.9m) 118.9m	〇 柵は設置延長
防 護 柵 開 閉 扉	(3.0m) 2.0基	〇 柵は設置延長
植 栽 工	30.0本	40m径/15本 (3本果樹 5箇所) 40m径/5本 40m径/70本 残株は1.0m程度

丸太筋工



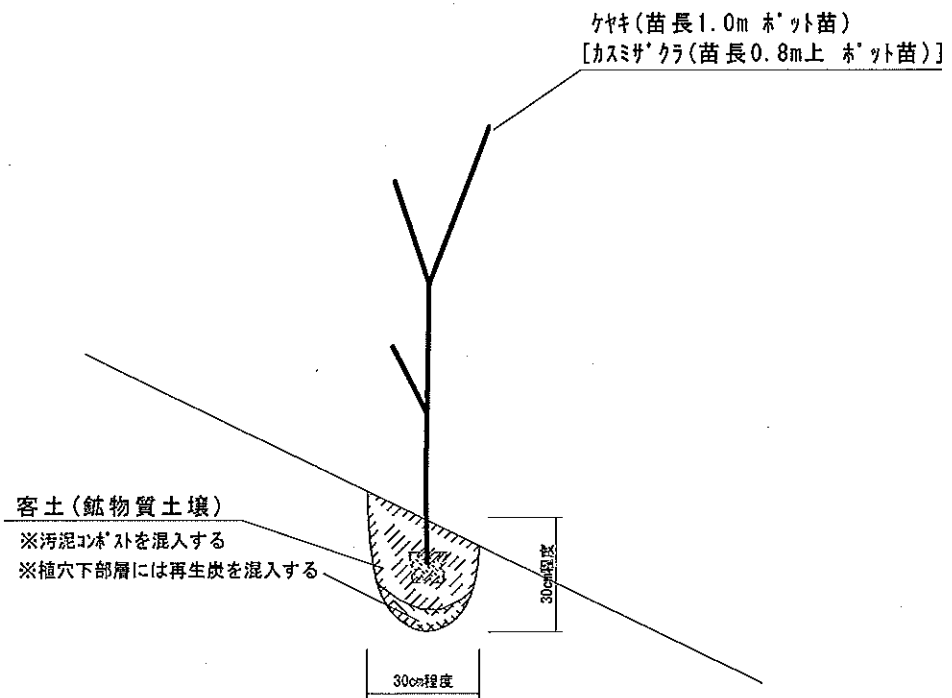
獣害防護柵



獣害防護柵開閉扉
(写真は両開き4.0m)

植 栽 工 標 準 図

(ケ ヤ キ H=1.0m)
(カスミザクラ H=0.8m上)



植栽工(ケヤキ、カスミザクラ)数量表

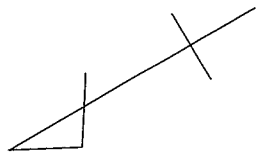
(1本当たり)

名 称	規 格	数 量	単 位	備 考
苗 木	ケヤキ(カスミザクラ) 苗長1.0m(0.8m上) ポット 地域性苗	1. 0	本	0書はカスミザクラ
客 土	鉱物質土壌 現場採取	0. 0 2	m ³	
土壌改良材	石灰系下水汚泥コンポスト (タテヤマユーキ相当)	0. 8 0	%	客土量の3～5% (客土に均等に混入する)
土壌改良材	再生炭 (エコ炭相当)	0. 2 0	%	客土量の1%程度 (植穴下部に混入する)

嵐山国有林 保安林改良事業 (No. 2) 平面図

S=1/250

事業面積 A=0.02ha
(189m²)

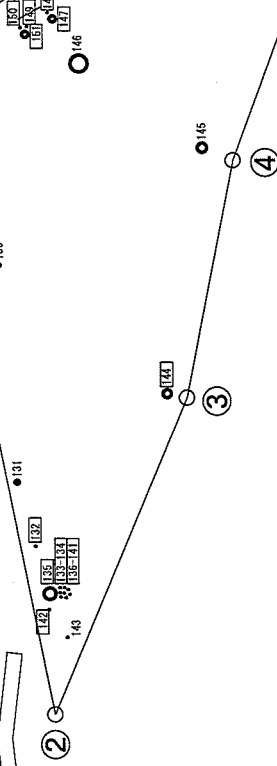


市道松尾嵐山緯68号

境界 9

境界 8

既設落石防護柵



凡 例

○ 数字	生育立木 (全25本 4.203m ³)
□ 数字	伐採立木 (内19本 1.483m ³ 伐採率35%)

伐採立木内訳表			
樹種	本数	材積	
アラカシ	16	1.450	
木ノミナナ	3	0.033	
計 (2種類)	19	1.483	

嵐山国有林保安林改良事業(No.2)



測点①から事業計画区域を望む

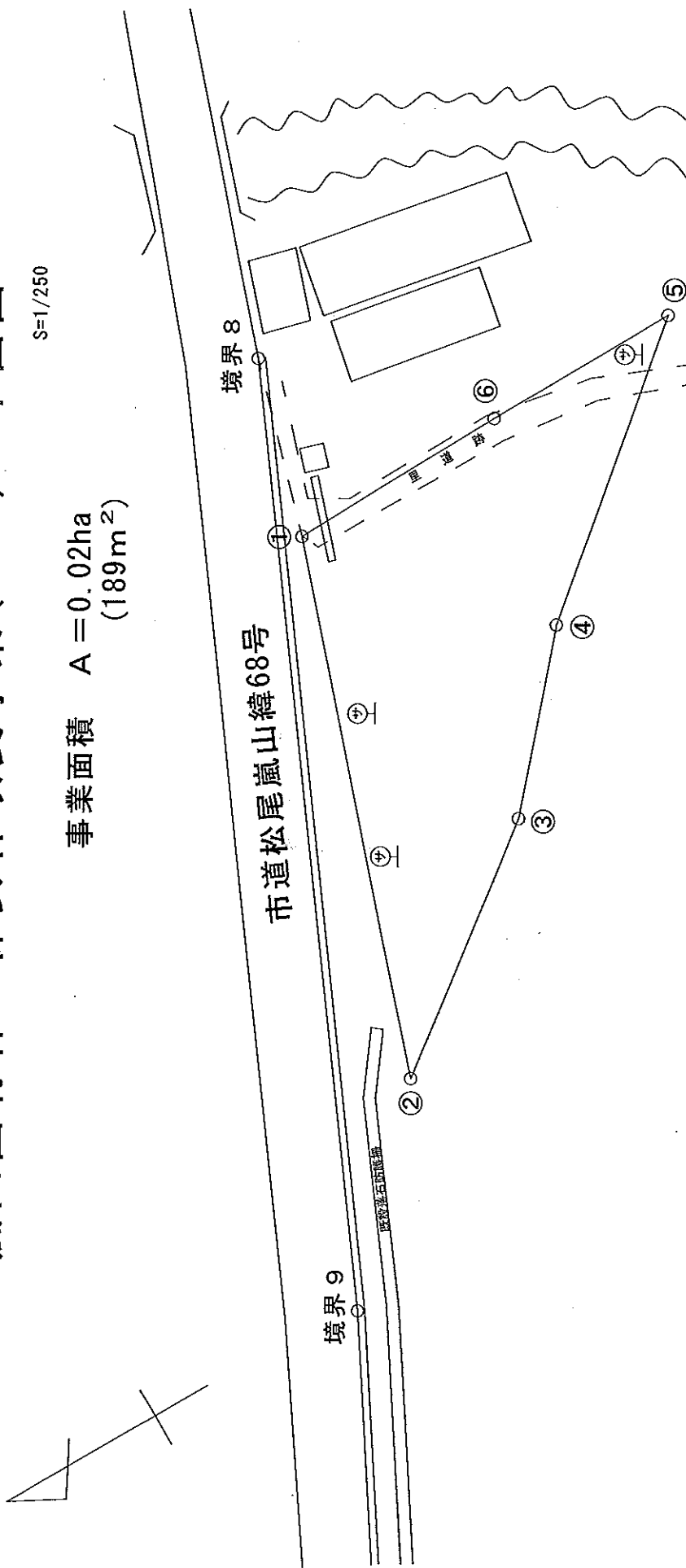


測点③から測点②方向の状況

嵐山国有林 保安林改良事業 (No. 2) 平面図

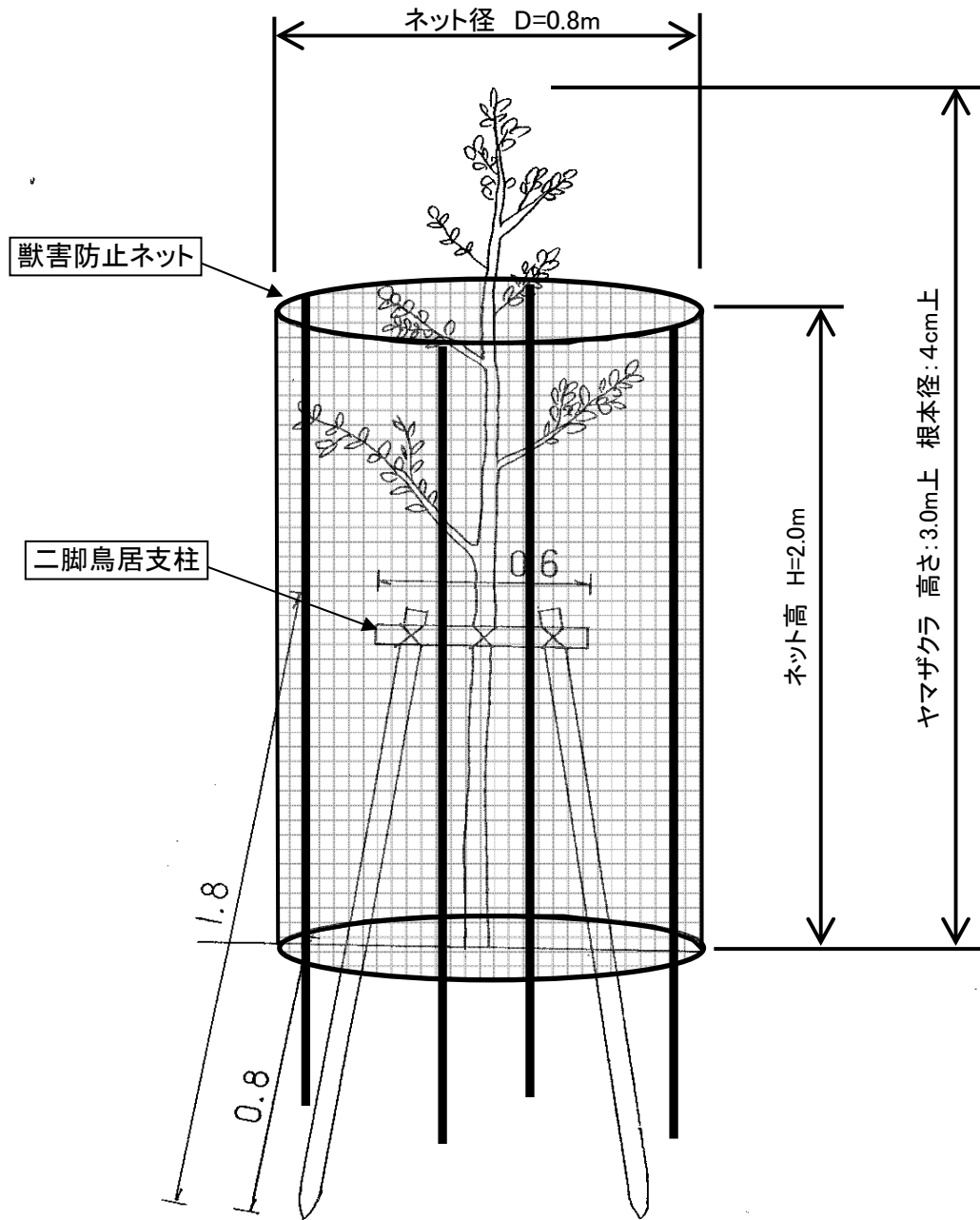
S=1/250

事業面積 A=0.02ha
(189m²)



植栽工	凡例	数量	備考
	④	3.0本	400'乃(H=3.0m) 扇型支柱、防風柵併設

植栽工(二脚鳥居支柱・獣害防止ネット)標準図 (ヤマザクラ H=3.0m)



二脚鳥居支柱 数量表				(1本当たり)
名称	規格	数量	単位	摘要
丸太	長さ1.8m 末口径6cm	2.00	本	支柱用
丸太	長さ0.6m 末口径6cm	1.00	本	横木用
雑材料	結束材料(シュロ縄)			

「嵐山植林育樹の日」実施要領（案）

1. 実施日時 平成22年2月25日（木）
 11時15分から12時00分
2. 実施場所 式典会場：櫟谷神社境内
 植樹会場：38ぬ林小班（蔵王権現堂鳥居付近）
 （別紙図面参照）
3. 集合場所 櫟谷神社境内
4. 日 程 （第5回意見交換を10時から1時間程度実施）
 開会 11：15
 所長挨拶 11：15～11：20
 嵐山保勝会会長挨拶 11：20～11：25
 来賓紹介 11：25～11：30
 植樹会場へ移動 11：30～11：40
 記念植樹（3本） 11：40～11：55
 記念撮影 11：55～12：00
 閉会 12：00
5. 出席者 嵐山意見交換会委員等 14名
 嵐山保勝会会員 （未定）
 嵯峨中学校長 1名
 京都大阪所 7名
 合計 名
6. 植栽樹種 ヤマザクラ大苗 3本（嵐山保勝会より寄付）

(別紙)

第29回「嵐山植林育樹の日」 会場位置図

(嵐山国有林38ぬ林小班)

大悲閣

嵐山国有林

渡月橋

ぬ小班

駐車位置

0038

駐車位置 (拡大図)

凡 例	
式典会場	
植樹会場	
視察箇所	
駐車位置	

1:5,000

嵐山温泉
花筏

渡月橋

嵐山遊覧船
のりば

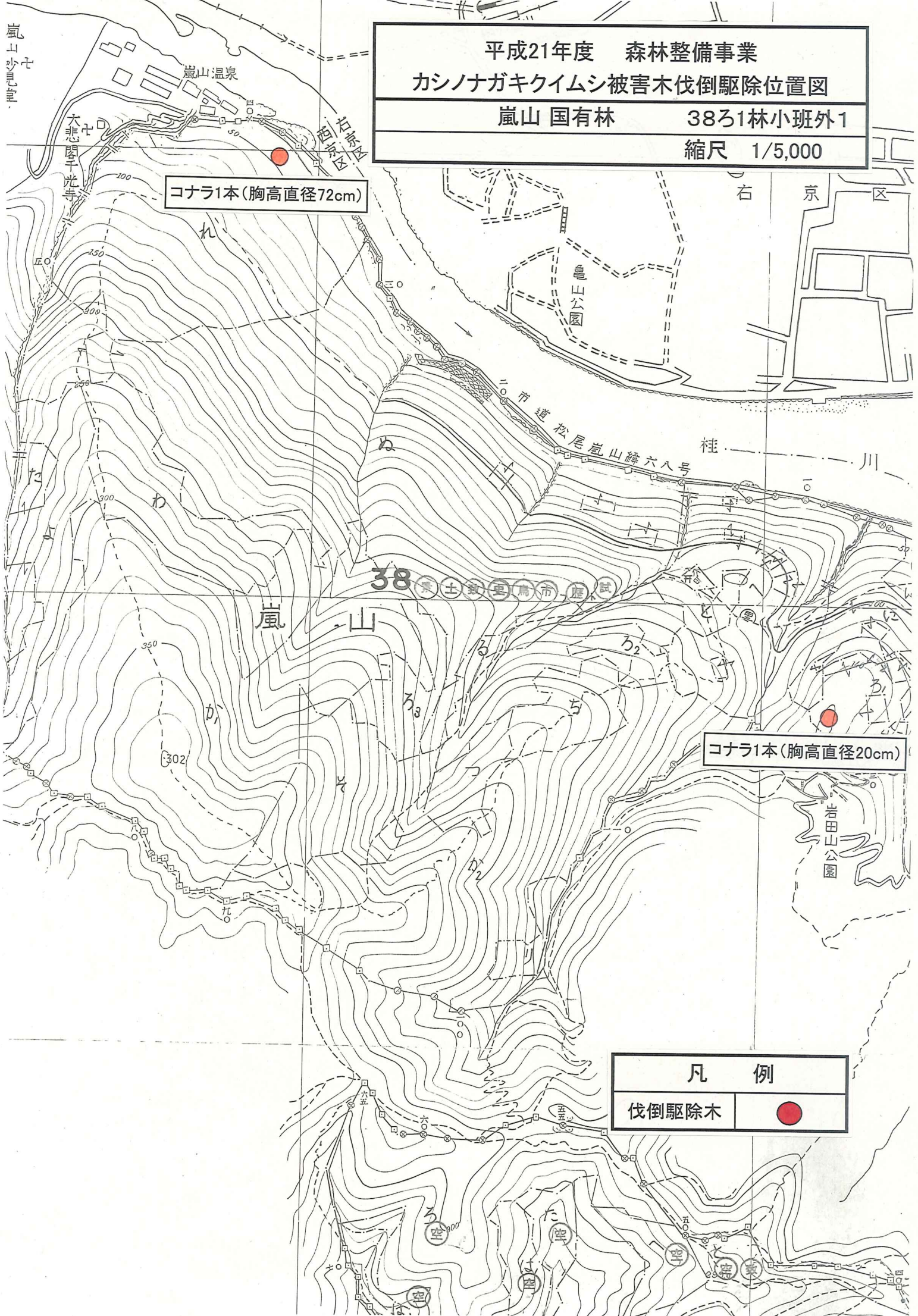
嵐山 七

平成21年度 森林整備事業

カシノナガキクイムシ被害木伐倒駆除位置図

嵐山 国有林 38ろ1林小班外1

縮尺 1/5,000



コナラ1本(胸高直径72cm)

コナラ1本(胸高直径20cm)

凡 例	
伐倒駆除木	●